神戸市会議員 北区選出 3期 （発行）自由民主党神戸市会議員団 神戸市中央区加納町6丁目5-1 電話 078-322-5846

坊（ぼう）やすなが『市政ニュース』

平成24年新年号

平成23年 第三回定例市会

総合交通体系のあり方について

Q 坊やすなが議員（代表質問 2011.9.27）

敬老・福祉パスを神戸電鉄適用へ検討すべき

現状の総合交通システムは、高度経済成長期以前に制度設計された一昔前のシステムであって、少子・超高齢化社会という時代に即したシステムへと今変革が必要なのではないでしょうか。

北区の例を参考にいたしますと、神戸電鉄という鉄軌道があります。北区は、大きく農村地域とニュータウン地域に分かれますが、一昔前の農村部の住民の多くは、大家族で生活をし、高齢者を最寄りの駅まで家族の誰かが送迎するなど、移動手段にそれほど困らなかったのですが、核家族化の進捗によって、単身や 2 人暮らしの高齢者が増え、通院しようにも、その手段に困る現実が出てきております。

またニュータウンにおいても、かつては多くの方が働きに出ており、会社支給の定期券を利用し、休日に出かける方も多かったのですが、退職者が増加するにつれ、国内で 2 番目に高額な料金体系である神戸電鉄に高い料金を支払ってまで外に出ようという人も少なくなっているのであります。

住民の移動が少なくなるにつれ、まちの活気やにぎわいが減退し、治安の維持や経済的側面からも問題が生じます。また、このような傾向は社会の根本的な問題を解消しない限り、今後ますます深刻さを増していきます。

特に、北区においては、鉄軌道は肝要な部分であり、北区民だけが現在高額な鉄軌道を利用せざるを得ない状況であることからすれば、利用しやすい政策を考えることは当然です。

このことの正当性は税の公平性の観点からも説明できます。例えば、北区と西区では、人口に大差はありませんが、市民病院機構や西神戸医療センターの外来患者の区別利用者数を見ますと、西区は約 27 万人の利用に対し、北区が約 5 万人の利用に留まっています。同じように支払われた税金等の財源が市民病院機構などへの交付金になっている事実を踏まえますと、受けるサービスに偏在性があると指摘せざるを得ないのであります。

また、同様に、中央市民病院への通院費用についても、

西区の高齢者は敬老パスを利用し、低い負担で通院が可能ですが、北区の高齢者は敬老パスが適用されず、余りにも高額な通院負担を強いられているのが実情であります。

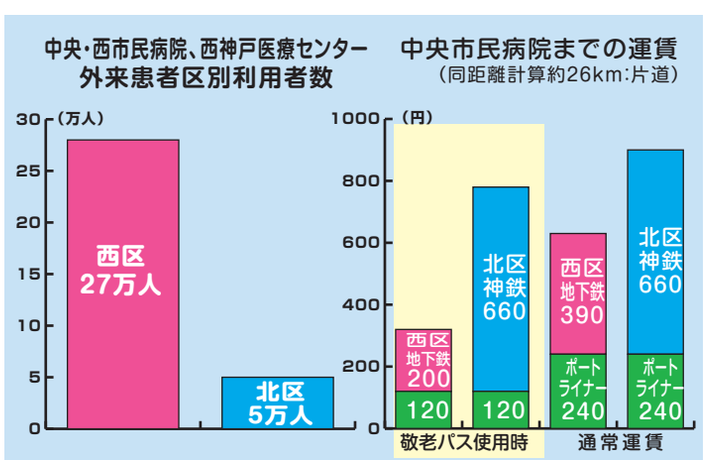
せめて、敬老・福祉パスを神戸電鉄の利用にも適用するなど、交通体系の根幹である鉄道利用の促進策を検討すべきでないでしょうか。

A 中村副市長

神戸電鉄の利用促進を図りたい

今後、少子･超高齢化社会への対応、低炭素社会を目指していくという中で、公共交通を中心として、自動車･自転車･歩行者がバランスよく組み合わされた交通環境を総合的に創出することが重要であると認識しております。都心･ニュータウン･田園地域･観光地など、地域ごとの特性を踏まえた交通施策や、市民･事業者･行政の役割などを検討することとしています。

ご指摘の神戸電鉄に関しましては、活性化協議会の活動として、地域の方々の意識転換を図るさまざまな取り組みが現在進められておりまして、利用促進を図っていこうとされています。



コミュニティバスのあり方について

Q 坊やすなが議員（決算特別委員会）

市が積極的に施策の展開を

コミュニティバスにつきまして、特に過疎地域は、バス停までの距離が市街地に比べますと、何倍も離れているところ、場所によればバスが数本しか走っていないというところもあります。

家族制度が崩壊をしつつある中、農村部でも老人の単身、二人世帯が多くなっております。バスの時刻に合わすことが一苦労であり、その上にバス停まで徒歩の往来が、なかなか難しい状況になっております。

通学においても、高額な定期代が必要な状況も起こっておりまして、過疎がさらに進んでいくような状況になっております。

前回の質問時は、地元が主体的にコミュニティバスを進めるとの答弁でありましたが、素人集団がビジネスモデルを構築することは、不可能に近く、神戸市がまずコミュニティバスのビジネスモデルを地元に提示するなどの積極的な施策展開が必要だと思いますが、如何でしょうか。

A 山本企画調整局長

ビジネスモデルは難しいが
市が地域の実情、希望に沿った取り組みを

既存のバス路線よりきめ細かなルートを持つ地域密着型のコミュニティバスの運行を求める声が増えており、過疎地においてバスが唯一の移動手段ということでの理解はしております。

現在、淡河町のゾーン･バス、住吉台のくるくるバスなどを、現実的に取り組んでいる中で、なかなかビジネスモデルとして画一たるものをつくっていくというのは、難しいものでございます。

しかし、地域の情報をつかみ、私どもが区と一緒に入り込み、その地域の希望にあったバス路線やバスの状態、あるいはバスの大きさなどは、実現化に向けて取り組めばある程度は可能かもしれません。また、地域の中で、別にバスなんかという方もいらっしゃるかもわかりませんので、交通関係の学識者や講師も呼んで、そうじゃない、将来に向け必要だ、というような機運を醸成するための説明会なども取り組んでいきたいと考えています。

過疎バス 行政と距離

日本 前へ 4

朝日新聞
淡河町 ゾーン･バスについて

「学びの十か条」ついて

Q 坊やすなが議員（代表質問 2011.9.27）

市の計画において人間形成の基本を
身につけ、学力向上を図る必要があるのでは

毎年、全国学力･学習状況調査で全国トップを占めるのが秋田県です。秋田県では「学びの十か条」といい、子供が学力向上のために取り組むべき項目を非常に分かりやすい言葉で表現したものがあります。

1日に何時間、何を勉強しなさいといった、ただ勉強さえできればいいという部分的なものではありません。まさしく人間形成の基本を、学校･家庭･地域、そして社会全体を巻き込んで、子供たちにきっちりと身につけさせていくことで学力の向上を図るものです。これは千数百年、国名が変わらずに続く私たちの国で、本来行われた諸外国から尊敬される日本教育の基本中の基本を現代風にアレンジしたものです。学力の向上はもちろんのこと、優秀な人間育成に大きな効果を生み出していると強く感じています。

一方、本市の教育政策は、秋田県とは異なり、学習の前提となる社会生活を営む上での墓本的なルールがあまり重要視されていないのではないかと思うのであります。当たり前のことを当たり前にできる子供を育てるためにも、市の計画において、この秋田県の学びの十か条のように、早急に基本的なルールを明示し、実践させる必要があると考えますが、ご見解をお伺いいたします。

A 永井教育長

神戸の子供の実情を踏まえ指摘を取り入れたい

神戸市の教育につきましては、「人は人によって人になる」という基本理念で、教育をやってきておりますが、子供たちの学力、あるいは学習意欲の向上のために家庭あるいは家庭と連携した学習の習慣化を図る必要があると思っております。ご指摘の、子供たちに身につけてほしい基本的なルール、これを明確にして、家庭あるいは地域に幅広く発信することが有効であると考えております。

今後、神戸の子供たちの実情も踏まえまして、分かる授業推進プランをさらに充実させる一環として検討してまいりたいと考えております。

秋田わか杉っ子 学びの十か条

1. 早寝・早起き・朝ごはんに家庭学習
2. 学校の話題で弾む一家団らん
3. 読書で拓く心と世界
4. 話して書いて伝え合う国語
5. 難問・難題にも挑戦する算数・数学
6. 新発見の連続、広がる総合
7. 決まり、ルールは守ってあたりまえ
8. いつも気をつけている言葉遣い
9. 説明は筋道立てて伝わるように
10. 学んだことは生活で学校ですぐ活用